

萩市企業景況調査

DI方式

令和7年 1月～ 3月期 実績
令和7年 4月～ 6月期 予測

《調査機関》
萩商工会議所

DI（ディフュージョン・インデックス）方式とは？

DIは各調査項目について判断の状況を示す。
ゼロを基準として、プラスの値は景気の上向き傾向
（「良い」）の回答割合が多いことを示し、マイナス
の値は景気の下向き傾向（「悪い」）の回答割合が多
いことを示す。

◎DI＝（増加・好転など「良い」の回答割合）
－（減少・悪化など「悪い」の回答割合）

※設備投資は割合（％）

景況の概要

長引く物価高による需要の停滞で慎重な見方続く

令和7年4月実施の景況調査の集計結果は以下のとおり（調査対象企業：萩市内60社、回収率92％）。

生産・売上 前期比は建設業が増加、それ以外は大幅な減少を示すサービス業・観光関連業を筆頭に全ての業種が減少となった（平均▲34.5㊦）。前年同期比では全ての業種で減少となった（平均▲14.5㊦）。今後（4～6月期）の見通しでは、GW等観光シーズンを迎える観光関連業は期待感が見られ増加すると予測、一方、製造業・サービス業は横ばい、それ以外の業種は減少すると予測。業種間でのばらつきが伺える（平均▲3.6㊦）。

収益 生産・売上動向と同様に前期比は建設業が増加、それ以外の業種は減少となった（平均▲41.8㊦）。また、前年同期比も全ての業種で減少となった（平均▲27.3㊦）。今後（4～6月期）の見通しでは観光関連業が低調ながらも増加、サービス業が横ばい、それ以外の業種は減少すると予測（平均▲12.7㊦）。依然として原材料費・仕入価格の上昇、人件費等経費の増加により収益を圧迫している状況が見受けられる。

資金繰り 前期比は建設業・サービス業が横ばい、それ以外の業種は悪化（平均▲18.2㊦）。今後（4～6月期）の見通しではサービス業が好転、建設業が横ばい、それ以外の業種は悪化すると予測、（平均▲7.3㊦）。

従業員数 観光関連業が適正、それ以外の業種は不足感があるという結果になった（平均25.5㊦）。

経営上の問題点 ①需要の停滞 32.7％、②人材の確保難・仕入価格の上昇 21.8％、③人件費等経費の増加 9.1％の順となった。

今後の業界動向 各業界の景気見通しは、全ての業種で停滞すると予測（▲41.8㊦）。長引く物価高による需要の停滞、コスト増、深刻な人手不足も続いている中、トランプ政権の関税政策による影響が懸念され、先行きの不透明さも聞かれ、業況は慎重な見方が続いている。

景況に関する生の声 ■法改正によるコスト増は避けられない（住宅建築）。■物価高に対する対応（海産物加工）。■物価高やトランプ関税により全てにおいて悪化。先行き不透明（機械製造）。■水産業界に比例し年々悪化の傾向（水産卸）。■天候不順や物価高の影響を受けて、お客様の出足が悪かった（衣料品店）■外国人観光客の増加。クレジットカード、QR決済の手数料による利益の圧迫（特産品販売）。

項目／業種		建設業	製造業	卸売業	小売業	サービス業	観光関連業	平均	前年平均	前々年平均
生産・売上	前期比	30.0	▲50.0	▲30.0	▲25.0	▲75.0	▲66.7	▲34.5	▲14.3	▲12.3
	前年同期比	▲10.0	▲20.0	▲10.0	▲12.5	▲25.0	▲11.1	▲14.5	12.5	28.1
	7年4月～6月期見通し	▲30.0	0.0	▲10.0	▲25.0	0.0	44.4	▲3.6	▲8.9	10.5
収益	前期比	20.0	▲80.0	▲40.0	▲12.5	▲75.0	▲66.7	▲41.8	▲21.4	▲21.1
	前年同期比	▲10.0	▲20.0	▲50.0	▲12.5	▲25.0	▲44.4	▲27.3	5.4	8.8
	7年4月～6月期見通し	▲40.0	▲10.0	▲20.0	▲25.0	0.0	22.2	▲12.7	▲17.9	1.8
資金繰り	前期比	0.0	▲20.0	▲20.0	▲25.0	0.0	▲44.4	▲18.2	▲21.4	▲12.3
	7年4月～6月期見通し	0.0	▲20.0	▲10.0	▲12.5	12.5	▲11.1	▲7.3	▲3.6	▲8.8
従業員数 7年3月末		60.0	20.0	10.0	12.5	50.0	0.0	25.5	44.6	40.4
設備投資	（実績）	20.0	40.0	10.0	0.0	62.5	0.0	21.8	14.3	28.1
	（計画）	40.0	30.0	20.0	12.5	37.5	11.1	25.5	19.6	26.3
業界動向		▲70.0	▲50.0	▲30.0	▲50.0	▲25.0	▲22.2	▲41.8	▲17.9	▲3.5